

英単語のつづりと読み方の関係

この教材は、みなさんに英単語のつづりと読み方(発音)の関係をつかんでもらうためのものです。

でも、最初に大事な注意点のお知らせです！

この教材では英単語の読み方を示すために「ひらがな」を使っています。

とはいえ、そもそも英語と日本語というのはまったく似ても似つかない言葉なので、英語の音の中には日本語にはない音などもたくさんあります。

だから、英語の音をひらがなやカタカナを使って表現するというのは、本当は不可能なことだったりします。

でもこの教材の目的は、英語とローマ字の違いや英単語のつづりと読み方がいまひとつピンとこない人たちなど、そもそも英語を勉強する以前の段階でつまづいてしまっている人たちを、とりあえずなんとかスタートラインにつけるようにすることです！

そのため「とりあえず」の分かりやすさを優先して、あえてひらがなを使用しました。

というわけで、あなたがもしこれまでに英会話スクールや発音関連の教材などである程度しっかり英語の発音について勉強したことがあるなら、この教材はやる必要はないと思います。

また、「特に発音の勉強をしたわけではないけど大体は分かる気がする」という人の場合は、無理にこの教材をやらなくても大丈夫！

とはいえ、こういう人たちにはできれば参考程度にでもこちらに目を通していただきたいです。

きっと意外と「へえ」と新鮮に感じる部分もあると思います。なのでぜひ試しにどうぞ。

いずれにしても、英語を「聞いたり」「話したり」しようと思ったら、発音を意識することは避けて通れません。

この教材がそのとっかかりになると嬉しいです。

そして、もし発音に興味が出てきたら、ちゃんと「発音記号」などがのっている一般の教材や発音を詳しく扱っている YouTube 動画などを通じてさらに理解を含めていくのがオススメです。

英語の文字と発音の特徴とローマ字についての注意点

これから英単語のつづりと読み方の関係を確認していくために、まずは基本中の基本を確認しておきます。

英語で使う文字と言えば ABCD や abcd など、大きく分けて大文字 (ABC... など) と小文字 (abc... など) の2種類があります。

このうち主に使うのは小文字の方だけど、文の最初に来る文字については大文字を使うのが決まりです。

次に ABCD や abcd といった文字の読み方について。

日本語のひらがなやカタカナには基本的にひとつの文字にひとつの発音しかありません。

例外は、「ボクは」「私は」という場合などの「は」と、「あなたへ」「東京へ」という場合などの「へ」くらいです。

それに対して漢字にはいくつかの読み方がありますが、英語も同じひとつの文字に対していくつかの読み方があるのが特徴です。

例えば c という文字を例にとると、A(えい)、B(びー)、C(すいー)、D、E、F... のように、ひとつひとつ前から順番に読んでいくときには「すいー」といった感じの読み方をしますが cut や nice といった単語の中での c は「すいー」ではなく「く」や「す」と読みます。

また英語の発音を考える上で気をつけないといけないのが小学校で習う「ローマ字」です。

ローマ字というのは、たとえば「か(ka)、き(ki)、く(ku)、け(ke)、こ(ko)」のように、日本語の音を無理やり英語の文字(a, b, c など)を使って表したもので、英語ではありません。

英語とローマ字はまったく別物です！

まったく別物ということで、当然、ローマ字のつづりと読み方と英単語のつづりと読み方を比べた場合、同じ a, b, c といった文字を使うとはいえ、かなり違いがあります。

でも、割と多くの人がこの「ローマ字は英語ではない、英語とローマ字はまったく別物」という部分が意識できていません。

そのせいで、つい英単語をローマ字風に発音しようとしてしまったり (bus を「ぶす」と読んだり)、聞こえた音をついローマ字風書いてしまったり (正しくは bike というつづりになるところを baiku と書いてしまったり) するというミスをやってしまいがち。

英単語の中に出てくる a, b, c といった文字をいったいどんな風に発音するのかを身につけるためには、ローマ字の読み方のことはいったん忘れるぐらいの気持ちがおススメ！

というわけで、いざ本編へ。

英単語の中の「母音 (= 「あいうえお」系の音)」の発音

英語の「母音」はアルファベットの中でも a, i, u, e, o という文字を使って表すのが基本で、この a, i, u, e, o にはそれぞれ2つ以上の読み方があります。

単語の中の「a」の発音 (音声動画 1)

英単語の中にある「a」は「えい」か「えあ」「あ」と発音します。

単語の中の「i」の発音 (音声動画 2)

英単語の中にある「i」は「あい」か「い」と発音します。

* この「い」は日本語の「い」と「え」の間ぐらいの音のイメージです。

単語の中の「u」の発音 (音声動画 3)

英単語の中にある「u」は「ゆー」か「あ」と発音します。

* 口を上下に開かずに発音する感じです。ローマ字では「u」を「う」と発音しますが、英単語の中の「u」を日本語の「う」のような音で発音することはほとんどないです。

単語の中の「e」の発音 (音声動画 4)

英単語の中にある「e」は「いー」か「え」と発音します。

単語の中の「o」の発音 (音声動画 5)

英単語の中にある「o」は「おう」か「あ」「お」と発音します。

* 基本的にアメリカ風だと「あ」っぽい響き、イギリス風だと「お」っぽい響き。いずれにしても日本語の「あ/お」よりも口を上下に開いた感じで「あ/お」という感じ。

a, i, u, e, o のどれも軽く短く発音することがある (音声動画 6)

母音 (= 「あいうえお系」の音) を表す a, i, u, e, o のどの文字も、口の周り全体の力を抜いて口を上下に開かない感じで(上と下の歯が合わさるぐらいのゆるい状態で) 軽く短く発音することがあります。

「あ」のような「え」のような「う」のような「あいまいな音」になります。

* 「アクセント」が無い部分の母音は基本的にこの音になりますが、そもそも「アクセント」とは何かについては次のページで。

英単語の中の「子音 (= 「あいうえお」以外の音)」の発音

単語の中の「b」の発音 (音声動画 7)

英単語の中にある「b(ビー)」は、くちびるを閉じた状態から短く「ぶ」と発音します。日本語の「ぶ」の音をローマ字で表すと bu ですが、この「ぶ」の音と比べると、息を吐き出すだけで後ろには「う」の音をつけないようにするのがポイントです。またつづりが 子音(bなど)+母音(uなど) のように並んでいるときは、基本的に子音と母音を同時に発音するようなイメージです。

単語	それぞれの文字の発音	全体の発音	意味
bus	b u s (ぶ+あ+す)	ばす	
bed	b e d (ぶ+え+ど(う))	ベど(う)	
baby	b a b y (ぶ+えい+ぶ+い)	べいび	

- * 英単語の中の u は「あ」か「ゆー」と発音するのが基本で、「う」と発音するものは少ないです。
- * 単語の一番後ろの y は、たいてい「い」と発音します。一番後ろが by なら「び」と発音します。

発音の豆知識 1

英単語には必ずどこか1ヶ所「強く発音することになっている部分」があります。この「強く発音する部分」を一般的に「アクセント」と呼び、「アクセント」は必ず「母音」の部分と決まっています。

たとえば bus や bed のように母音が1ヶ所にしか入らない単語の場合だと、自動的にアクセントはこの母音の部分 (bus なら u の部分、bed なら e の部分) と決まります。一方、Japan や tennis や hotel のように母音が2ヶ所以上に入る単語の場合、アクセントがどこにあるのか (どの母音を強く読むのか) は単語次第ということになります。

また、上で述べているようにつづりが 子音+母音 という並びの場合は、基本的に子音と母音を同時に発音するようなイメージになります。

結果的に bus なら bu の部分をまとめて強く「ば」と発音し、bed なら be の部分をまとめて強く「べ」と発音するような感じになります。

単語の中の「c」の発音 (音声動画 8)

英単語の中にある「c(すいー)」は、短く「く」と発音します。でも後ろに「e」が「i」が続くときは「す」と発音します。

どちらの発音の場合も、日本語の「く」や「す」と比べると、息を吐き出すだけで後ろに「う」の音をつけないようにするのがポイントです。

単語	それぞれの文字の発音	全体の発音	意味
city	c i t y (す+い+と(っ)+い)	すいてい	
cat	c a t (く+えあ+と(っ))	きやと(っ)	
nice	n i c e (んぬ+あい+す)	んないす	

* 単語の「語尾」(= 一番後ろの部分)の y は、たいてい「い」と発音します。city のように語尾が ty なら「てい」と発音します。

* 単語の「語尾」(= 一番後ろの部分)の e は発音しません。nice のように語尾が ce なら c の音だけ「す」と発音します。

単語の中の「d」の発音 (音声動画 9)

英単語の中にある「d(でいー)」は、短く「ど(っ)」と発音します。

日本語の「ど」の音とはだいぶ違って、「ど」と比べると、息を吐き出すだけで後ろに「お」の音をつけないようにするのがポイント。

単語	それぞれの文字の発音	全体の発音	意味
dog	d o g (ど(っ)+お/あ+ぐ)	どおぐ だあぐ	
card	c a r d (く+あー+ど(っ))	かーど(っ)	
desk	d e s k (ど(っ)+え+す+く)	ですく	

* 後ろに子音が続くアクセントがある o は基本的に口を上下に開いて、アメリカ風だと「あ」、イギリス風だと「お」という感じで発音することが多いです。

* ar の組み合わせは、ほとんどの場合、口を上下に開いて「あー」と発音します。

単語の中の「f」の発音 (音声動画 10)

英単語の中にある「f(えふ)」は日本語にはない音で、上の歯を下の唇にあてた状態で短く「ふ」と発音します。

日本語の「ふ」と比べると、息を吐き出すだけで後ろに「う」の音をつけないようにするのがポイント。

単語	それぞれの文字の発音	全体の発音	意味
face	f a ce (ふ+えい+す)	ふえいす	
fish	f i sh (ふ+い+し)	ふいし	
life	l i fe (る+あい+ふ)	らいふ	
beef	b ee f (ぶ+いー+ふ)	びーふ	

* sh の組み合わせは「し」という感じだけど、日本語の「し」と比べると「い」の音をつけない感じにするのがポイント。(音声動画 31)

* ee の組み合わせは「いー」と発音します。(音声動画 33)

発音の豆知識 2

「c」の発音の補足部分でも軽く触れているように、ふつう単語の「語尾」(= 一番後ろの部分) の e は発音しません。face のように語尾が ce なら c の音だけ「す」、life のように fe なら f の音だけ「ふ」と発音します。

また単語の中でも nice や face のように終わりの3文字が 母音+子音+e という組み合わせになる場合は注意！！

この組み合わせの場合、語尾の e を発音しないだけでなく、e 前の前にある母音(nice なら i の部分、face なら a の部分)をアルファベットを a(えい), b(びー), c(すいー), d(でいー), e(いー) ... と前から順番に読んでいくときの読み方で発音するのが原則です。

「かわいい」という意味の cute なら「く+ゆー+と(う)」で「きゅーと(う)」という感じになり、「バラ」という意味の rose なら「うる+おっ+ず」で「うるうず」といった感じ。

中には come(来る)や love(愛(している))や give(与える)などのようにこの原則があてはまらない単語もありますが、多くの場合はこの原則があてはまります。